

よきことを、よきひとへ。
被災地復興に取り組む人のための業界新聞
<http://www.rise-tohoku.jp/>
発行所 NPO法人 HUG
〒151-0053 東京都渋谷区代々木 2-10-9-8 F
<http://www.h-u-g.jp> e-mail: info@h-u-g.jp

東北復興新聞

無料 第22号
月1回発行
創刊 2012年(平成24年)1月16日月曜日

2013年(平成25年)3月25日月曜日

特集 4-5面

岩手県釜石市 コミュニティ形成支援のモデル事例



復興コーディネーターとそのマネジメント

**就労以外の効果も
可視化**

東北UPは、被災3県においてNPOとの協働を通じてICTスキル講習および就労支援を行うプロジェクト。講習実施等の運営もNPOにゆだねる形で行われてきた。現在までに被災3県で17名の講師を地元NPOに養成し、のべ851人に対して就労支援講座を開催。求職者の就労率も

SROIで事業評価 社会的価値を貨幣換算 社会事業評価の新潮流となるか

日本マイクロソフトは、昨年より推進していた東北就労支援プロジェクト「東北UP」の成果を発表した。成果評価には、欧米で社会事業の効果測定に活用されているSROI (Social Return On Investment) を採用。1年間の付加価値は、投資額に対して約4・5倍の7千6百万円となった。

45%となり、一定の成果を達成したかたちとなる。注目すべきは、マイクロソフトは本事業について、ビジネスデザイン株式会社によるSROIを用いた第三者評価を受けたことだ。SROIは欧米で開発された社会事業評価の手法で、計測が難しいとされる社会的便益についても貨幣価値に換算するもの。講座開催数や就労率といった数値化しやすい指標だけでなく、作業の生産性

やキャリアへの意欲向上、人間関係の改善といった定性的な効果も貨幣価値換算するところが特徴だ。同事業においては、開始時点からグループインタビューなどを重ねアンケート

就労よりもスキル向上に高い付加価値

今回のSROI第三者評価の結果で、本事業の生み出した効果は7千6百万円となった。その内訳を見ると最も付加価値が大きかったのは「ITスキル向上による生産性の向上」となり、金額にすると2千万円を超える。SROIにおいては、事業による変化のうち社会的価値が認められるものを、「行政コストの削減」「相当の民間サービスを受けた際の費用」「受益者に生じ

トを設計。ステークホルダー(受講者、地元NPO等の関係者)の事業による変化を調査することで、綿密な効果項目の洗い出しとその価値の数値化を実現した。「当初想定していなかった効果も確認できたことが大きな収穫」と本事業を担当したマイクロソフトの龍治玲奈(りゅうじれな)さんは話す。

SROI測定結果 高付加価値の成果

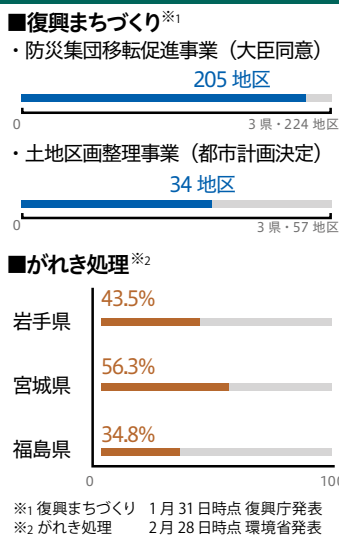
順位	どんな変化が見られたか	成果指標	貨幣価値(円)
1	受講生はITスキルが向上した結果、事務作業が早くなり、仕事が増えるようになった。その結果、新たな仕事に取り組めるようになった	最低賃金×短縮した時間	20,223,000
2	受講生は、就職できた	給与・報酬の金額・受給期間	13,287,859
3	受講生がITスキルを身に付けた	通常マイクロソフトの提供するIT講習費用	11,995,200
4	受講生はITスキルが向上した結果、ミスがなくなり、仕事の効率化が図られた	最低賃金×短縮した時間	6,336,540
5	受講生はキャリアアップに向けて自信がついた	コーチング費用系	5,145,000
6	受講生の孤立が解消した	社会的改善 カウンセリング費用	4,950,000

評価を元にマネジメントを改善

事業効果の可視化に加え、SROIにはもう一つの効果がある。「CSR事業は独りよがりになってはならない。評価プロセスを通じた新たな効果は間違いなく大きなものだろう。

未だ事例の少ない日本では7千6百万円、4・46倍という数字だけで議論するのは難しいだろう。ただし同様の手法が広がり、社会事業の効果と同じように数値化されると、結果、社会や資金提供社に対して説明責任を果たせる、といった効果は間違いなく大きなものだろう。

数字で見る復興進捗状況



3面 東北大学 総合地域医療教育支援部 石井正教授



シリーズ
医療
の
現場から

6面 岩手県大槌町 レストラン「パルリート」



東北の
いま

7面 岐阜県飛騨市古川町



シリーズ
他
地域に
学ぶ

8面 木村商店 いか徳利



おいしく
復興

絆の 継承

私達は五つのキーワード
伝承、集い、賑わい、健康、減災をテーマに、
東北復興活動のお手伝いをいたします。

地域の生活スタイルに合わせた、
コミュニティ形成とは？
四季を感じられ、
街に賑わいを呼ぶ空間づくりとは？
災害の教訓とそこから生まれた絆を
次の世代に受け継ぐためには？
災害発生時の被害を
軽減させるための備えとは？
あらゆる世代が青空の下で汗を流す
そんな健康づくり都市とは？

コトブキ復興 検索

<http://www.townscape-net.jp/blog>

東北の未来に向けて

コトブキ東北支店スタッフによる
ウェブサイトがオープンしました。

2分でわかる! NEWS ダイジェスト

2月16日～3月15日

【政策】

宮城県、13年度も職員代行採用

宮城県は12日、沿岸市町の職員不足に対し、13年度も任期付職員を代行採用する意向を示した。採用予定人数は100人以上。

【産業復興】

女川町とNTT、観光情報発信

女川町観光協とNTT東日本が無線LANを利用し観光情報を発信する「観光のまちおながわ」を開始した。

宮城県DC概要発表

宮城県は今年4～6月に開催するデスティネーションキャンペーンの概要を発表した。来年度には福島県での開催も決定した。

福島県、政投銀と連携協定締結

福島県は、企業誘致や再生可能エネルギー関連産業などに対する戦略づくり促進のため、日本政策投資銀行と連携協定を結んだ。

川内村、独社とメガソーラー

福島県川内村が、ドイツNRW社の日本法人と協定を結び、約6メガワットのメガソーラーを設置する。来年3月の完成を目指す。

【生活・まちづくり】

南リアス線、4月3日に一部再開

岩手県の南リアス線は、運休中だった盛(さかり) - 吉浜間の運行を4月3日から開始する。来年4月には全線再開の見通し。

常磐線亘理 - 浜吉田、運転再開

JR常磐線の亘理 - 浜吉田間が16日、震災前と同ルートで運転を再開した。現在運休中の相馬 - 浜吉田間も17年春に再開を見込む。

石巻市、内陸に工業団地造成へ

宮城県石巻市は、被災企業の移転先として市内の内陸に20ヘクタールの工業団地を整備する。14年度に造成着手する方針。

陸前高田市、初の集団移転着工

岩手県陸前高田市気仙町で22日、32地区あるうち、初の着工となる上長部地区と双六第2地区の集団移転事業が開始された。

宮城県、住宅再建に250万円

宮城県は、災害危険区域外世帯に対する住宅再建支援として1戸当たり250万円を約3万世帯へ配分する方針を示した。

【原発・放射能】

福島県3町村、区域再編

国は、福島県3町村の警戒区域と計画的避難区域を放射線量に応じて新たに3区域に再編する。葛尾村22日、富岡町25日、浪江町4月1日に移行する予定。

双葉町長、伊沢氏が当選

福島県双葉町の町長選が埼玉県加須市で投票開票され、前町議の伊沢氏が当選した。投票率は過去最低の56.59%だった。

相馬市、仮設焼却炉が稼働開始

環境省が福島県相馬市と新地町のがれき約17万トンの処理のために相馬市に建設した仮設焼却炉が20日、本格始動した。

【医療】

東北大病院、復興センター設置

宮城県仙台市の東北大病院は、県内の各地域へ適正な医師の派遣を行うため、調整機能を担う地域医療復興センターを新設した。

【その他】

グーグル、浪江町の画像を撮影

グーグルの日本人は、福島県浪江町でストリートビューの撮影を始めたことを公表した。数ヵ月後に全世界へ公開する。

応援消費、6割が意欲的

日経新聞が2月に全国で実施した調査によると、回答のあった4010人中、東北3県の応援消費に「取り組みたい」が約59%に上った。

復興交付金5次1982億円

復興庁は、復興交付金の第5次配分を決定。東北4県58市町村に、事業費ベース計1982億1000万円の配分となり、配分額は各県の申請額を上回った。



東北大病院の総合地域医療教育支援部教授に就任した石井正医師

12年10月、東北大病院が総合地域医療教育支援部を新設。石巻赤十字病院の医師、石井正氏が教授として就任した。氏は、震災時に宮城県災害医療コーディネーターを務め、震災直後から、石巻赤十字病院では前線で患者救済の指揮を執った。その様子は書籍『東日本大震災 石巻災害医療の全記録』(ブルーバックス)にも詳しい。

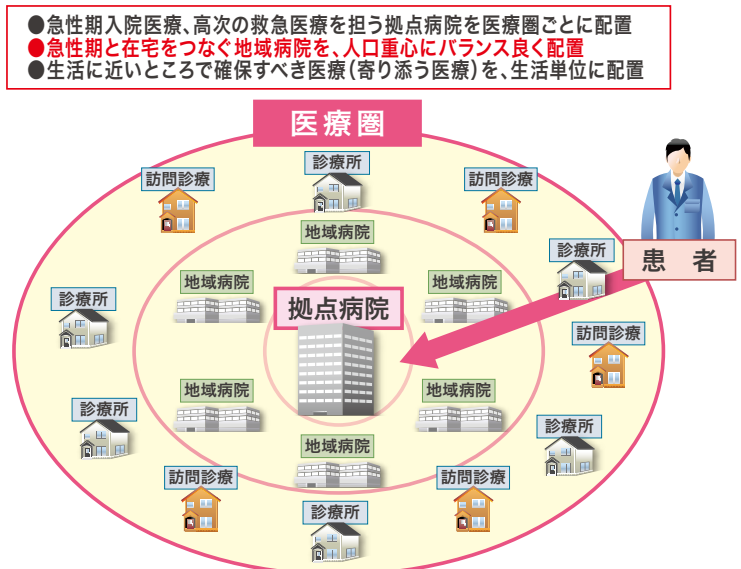
今回、この総合地域医療教育支援部の目的と震災後の日本の地域医療が抱える課題、そしてそれを解決する方針について石井教授に聞いた。

東北沿岸被災地の医療課題は震災によって顕在化したと言える。具体的には医師不足に代表される医療過疎の問題だ。これは東北だけではなく、日本全国が抱えている問題でもある。

「医療過疎地域での医療は人道支援の観点に立ったとき、誰かが担うべきものです。しかし、医師一人ひとりに描く人生やキャリアプランがある。それは専門医の資格を取ることにも研究を続けることかもしれない。救急病院で高度医療に携わりたいという人もいます。それを、夢や希望を犠牲にしてください、とは言い難いものです。」

ではどうすべきか。こうした医療過疎の課題の解決策として考えられているのが、地域の拠点病院を軸とした医療圏形成だ(図)。

これは、各地域の医療を支える中核病院を拠点に、医師というリソースを地域の病院や診療所に再配分する考えだ。中核病院が医療者を集め、彼らを定期的に周辺医療機関に訪問・出向させる。若手医師にしても、所属が地域の中核病院ということであれば、救急などの臨床を経験したり、自分の志望する専門医を目指すしながらも地域の診療所をサ



ポートすることができ。この仕組みは、以前から全国的に推奨されてきたが、なかなか実施には結びついていなかった。東北大病院は、12年10月1日に総合地域医療教育支援部を新設。医学部定員増も踏まえ、地域医療体制の確立、被災地で活動する医療人の確保に踏み切った。

医療連携における医師配置は、これまで診療科と関連病院などの単位で行われてきたが、同部新設により、今後は従来の連携を尊重しつつ、より俯瞰的に医師配置を進めていけることになる。

後進育成の面でも可能性が広がる。東北大学医学部では、この4月に全国から昨年よりも10名増員され135名が入学する。「地

シリーズ 医療の現場から

医療過疎の問題にこえる 東北大学の「地域医療連携構想」

< 原発避難者の帰還 > 復興展望のコミュニケーション強化を

積極的に施策を展開する浪江町

浪江町の住民意向調査結果が公表された。3割の住民が避難指示解除後も「町には戻らない」と回答したとメディアで報道されたが、逆に言えば7割に帰還の可能性があるということだ。個人的には前向きな結果として捉えている。

避難者の方々の帰還へ向けて何が必要なのか。私は避難者とのコミュニケーションが重要だと考えている。放

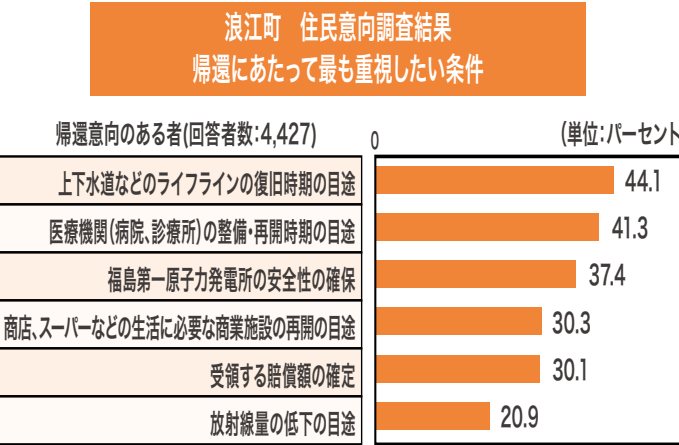
射能リスクもそうだが、特に生活をイメージできるような復興の展望に関するコミュニケーションだ。

調査において、帰還意向ありの方々は上下水道などのライフラインの復旧、医療機関の整備、スーパーなどの商業施設の再開、などを帰還にあたって重視すると回答している。一方、多くの避難者の方が「先が見えない」「生活のイメージがで

きない」と感じているのが現状だ。ただし、町側に計画が全く無い訳ではない。新しくユニークな計画をつくるというよりも、あるものをしっかりと伝えることが重要だ。そうすることで、もともと帰還に向けての気持ちは高まっている。もう一つは、具体的な施策としては、大きく2つの方向性が考えられる。一つは浪江町警戒区域のストリートビューを公開した。これにより極端

な部分に集中しがちなメディア報道だけでなく、避難者は自ら町の状況を確認する事ができるようになった。まだ一歩しかないが、あらゆる手段で「町のいま」を伝えていく努力が必要だ。

今月発表された区域再編を受け、浪江町では4月より一部の区域への立ち入りができるようになる。一方、本格的に町民がそこで生活できるまでにはまだ2年3年と時間が必要だ。長期戦となるからこそ、生活をイ



復興展望のコミュニケーションが重要な文／藤沢烈(RC復興支援チーム)だ。

一部で漁業の六次産業化、コンパクトシティ、地産地消エネルギー、宅配見守り、森・海の学校等々の新たな取り組みが始まっている。東北で生まれる新興事業は、日本各地のモデルになるだけでなく、いずれ高度成長期を過ぎ高齢社会に突入する新興国のモデルになるだろう。

巻頭言

東日本大震災から2年の節目を迎え、復旧から復興の槌音がようやく聞こえてきた。あらためて尊い御魂に深い哀悼と感謝の意を表し、現地の方々と共に復興を担う一人として、今後大切にしたい姿勢を提言したい。

支援から共に創るへ、復興から新興への道すじ

東北には素晴らしい資源・資産が沢山ある。豊かな森・里・川・海、美しい景色、美味しい食べ物、伝統文化。助け合い支え合うコミュニティ、地域再生を誓うリーダーたち。取り組むべき共通の大きな課題に対して日本各地、世界からの応援があり、受け入

れる土壌ができた。これほどの条件が揃うことはまずない。3年目は10年先・20年先の地域の姿を描く大切な正念場となる。誰かが絵に描いた餅ではなく、住民による、住民のための、地に足のついた「新しい地域づくり」が始まる。復興支援を、次世代

支援する一されるの関係を超越しているから、周囲にもその関係性が伝播する。核のまわりに、これからの長期的な復興を担う多様な力を結集しよう。ただ場をつくるだけ、人を繋ぐだけでは成果に結びつかない。目指すべきビジョンと、物事を進める場づくりのプロが必要だ。その場では、ビジョンを実現するために、どう持続可能な事業モデルを構築するかをしっかりと議論しよう。「支援」はどうしても他人事になり遠慮がある。ビジネスの観点が必要だ。強みを活かし合い、地域事情を十分理解

しながらも、本気で成果を求める議論をしよう。成果は復興の先の新興を目指す。復興と新興との違いは、見えている10年後の景色だ。地域に長く暮らし人々の多くは、元の生活を取り戻すことが復興のイメージだろう。ところが、失ったものがあまりに大きい東北沿岸地域はそれが不可能な状況だ。であれば課題先進地域における「新興」を目指す方向に早く舵を切るしかない。外部の力を活かし、震災前の課題も同時に解決する持続可能なソーシャルビジネスを産み出すことに注力したい。

笑顔を運ぶサッカー教室。

JFA・キリンスマイルフィールド

開催希望小学校募集のお知らせ

運動が苦手な子どもたちも、運動が大好きな子どもたちも。みんながいつしよに楽しめる。サッカーボールを使ったプログラム。サッカー日本代表経験者が岩手県・宮城県・福島県の小学校を訪ねます。

www.jk-smilefield.jp

●開催日時:2011年9月～2013年12月末日(予定) 日時は学校側のご都合に合わせて実施します。
●開催場所:小学校内(校庭や体育館など) ●学校側の費用負担はございません ●ボールやゴールなどは寄贈いたします
このプロジェクトは、「復興応援キリンプロジェクト」の一環として、子どもたちにサッカーを通じて笑顔になってもらいたいとの思いから、日本サッカー協会(JFA)とキリングループが協力し、岩手県・宮城県・福島県の小学校を対象にした巡回型サッカー教室です。

お問い合わせ:0120-773-903 受付時間:10時～17時(土日・祝祭日を除く) お問い合わせ:メールアドレス info@smilefield.jp

復興応援キリンプロジェクト
復興支援 人々 日本

特集

岩手県釜石市

コミュニティ形成支援のモデル事例に学ぶ

復興コーディネーターとそのマネジメント

住宅再建や新たなまちづくりへ向け、各地域におけるコミュニティ形成の重要性が高まっている。岩手県釜石市では、一地区で行った「復興コーディネーター」を活用した施策が評価され、この春から市内の他地域で同様の施策が横展開されることとなった。評価が難しいとされるコミュニティ支援等のソフト的活動だが、どのような成果があったのか。復興コーディネーターの役割と、それを支えたマネジメント手法を取材した。

住民活動を支える復興コーディネーター

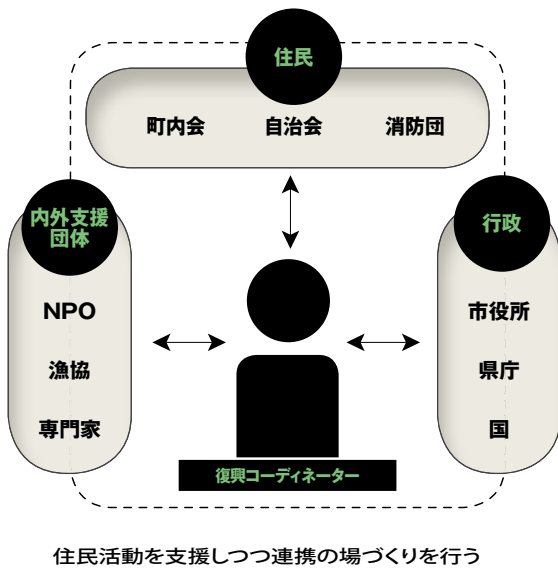
岩手県釜石市の南部に位置する唐丹（とうたん）町。現在人口2千人強の同町沿岸部はそのほとんどが漁村で、7つのうち6つの地区が被災した。東京を拠点とする一般社団法人RCF復興支援チーム（以下RCF）は、昨年6月より同町に「復興コーディネーター」を派遣し、「コミュニティ形成支援」を行ってきた。復興コーディネーターの役割は大きく2つ、1つは住民活動のサポートだ。草むしりから地元中学校の駅伝大会、各種イベントの企画運営や震災記録誌の制作助成金取得など、あらゆる

住民活動をサポートしてきた。こうしたイベントなどの活動を通じて、外部との触れあいや住民同士の再会の機会が生まれ、地域の活気につながっている。

「住民の方々がしたいことを大切にしながら、実現に向けて色々なアイデアを提案しながら進めています」復興コーディネーターとして昨年7月から現地入りした山口幹生さんは話す。彼らが住民からの大きな信頼を得ている理由は、さまざまな支援活動とともに、外部の人間として「前に出過ぎない」立ち位置にも秘訣がありそうだった。

外部部だからこそできる調整役

もう一つは、まちづくり議論の場づくりだ。RCFが唐丹で活動を開始した際、公営住宅や土地利用など先が見えない中、行政からの説明に疲れを感じる住民も少なくない状況だった。こうした中では住民主体のま



住民活動を支援しつつ連携の場づくりを行う

ちづくりは実現できない、議論の場づくりや調整に奔走した。その一つが、町内会役員や仮設の自治会長など住民の中心メンバーに提案した、行政が主催する協議会に先駆けて行う連絡協議だ。会議では長

住民の代表性をつくりだす

RCFでは、こうした活



唐丹町で活動するRCFの復興コーディネーター。右から山口幹生さん、山口里美さん、釜石隊として採用が決まった下川翔太さん

指標設定と綿密な業務マネジメント

復興コーディネーターの成果を支えているポイントがこれだけではない。マネジメントレベルにおいても、さまざまな工夫がされている。まずは徹底した指標管理だ。前述の「代表性のある住民組織が存在する」に加え、「住民による自発的な活動が行われている」「議論において女性や若者などの意見が吸い上げられている」などの10項目以上を指標として設定し、エクセルシートで地域ごとに詳細に管理。そしてそれを行政や関連団体と定期的に進捗確認を行っている。こうしたことで、業務マネジメントに留まらず、セクターを越えた関係者間でのゴールの共有が実現されているのだ。

市内他地域での横展開を開始

唐丹町では、約9ヶ月間の復興コーディネーターの活動の成果として、前述の「代表性のある住民組織の構築」等の各指標において改善が見られた。これをうけ釜石市は、この4月より復興コーディネーター施策を横展開する。「釜石リジョナルコーディネーター」（通称…釜石隊）の名前で

マネジメントスキルを地域に根付かせる

「各地域で固有の状況が

あるため、唐丹とまったく同じ形でやる訳ではありません。こう話すのは、リサーチや役場内調整を行う釜石市復興推進本部事務局の石井重成さん。RCFという外部団体として復興コーディネーターが現地に入った唐丹と異なり、釜石隊のメンバーは各地域の中心的な住民団体・組織に派遣されるかたちとなる。それぞれ別の団体に属しながら、横串でマネジメントを行うことで成果を最大化するという狙いだ。4月から活動を開始する7名のマネジメント役には、唐丹に入っていたRCFメンバーも参加する体制だ。

マネジメントにおいては、唐丹で行われていた業務管理や指標管理に加えて、釜石隊内におけるノウハウ共有や、地域をまたがったリソースマッチングが行われる。各地域の課題や状況を共有しながら、チームとなり一緒に解決していく形だ。こうした「つひとつのスキルが少しずつ各地域に根付いていくことは、長期的に見てこの施策の大きな意義だと言えるだろう。」

復興コーディネーター施策3つのポイント

第三者的な立ち位置

前に出過ぎず、外部の人間として相談に乗り、提案や調整を行う。あくまで意思決定は住民側

徹底した指標管理

住民組織の代表性や住民の自主的な活動、多様性の取り入れなど、定性項目も指標として管理する

セクターを超えた連携

指標の進捗などを確認する場を定期的に開催。住民、行政、外部などセクターを越え連携しながらプロジェクトを推進する



RCFが行政と住民の間に立って開催した個別の住民説明会。全住民への説明の前に、中心となる住民達で内容の確認を行った



海外の支援企業によるボランティアイベントの様子



取り壊しが決まった唐丹小学校で行われたお別れ会。告知やグッス作成、当日の準備などをRCFがお手伝い



唐丹町の地区対抗で行ったスカットボール大会の様子。大盛況で住民は久々の再会を喜んだ

地域の声



アイデア豊富な、頼れる相談役です 唐丹公民館長 見世健一さん

「こういった点で困っているんだけど」と誰かに相談したい時に「じゃあこれしてみますか」ってすぐそばで答えてくれる存在がいるって大切なことだと思います。そういった人がいてくれるだけで安心感も生まれますし。唐丹にとってのその存在がRCFの皆さんでした。

復興に向けて新しい取り組みが求められる時に、アイデアを持ってきてくれるのも本当に助かりました。こちら側が「やりたい」と申し出た時にさまざまな提案をしてくれる。「そういったこともできるんだ」と私達にはない視点で形にしてくれる。もう、なくてはならない人たちですね。



地域の人が集まる機会が嬉しい 唐丹町小白浜仮設団地自治会長 植村年恵さん

震災後に仮設団地が分かれてしまい、地域の人が散らばってしまっていました。「集まりたいね」なんて話はするけれど、足が悪いのに坂は多いし、何かと自分たちだけでは不便。RCFの皆さんには、地域をまたいだスポーツ大会や懇親イベントなどをお手伝いして頂いて。

おんぶに抱っこで申し訳ないような気はしていますが、みんな久しぶりだねえ、って喜ぶんです。正直な気持ち、「まだ地域の人々に負担をかけたくない」という気持ちがあります。だから「私たちがやります」と率先して声をかけてもらえるのは本当に助かりますね。お言葉に甘えちゃう存在です。



古川町の中心街。昔ながらの風情がある町屋や蔵、用水路には鯉が泳ぐ。



この日はアメリカ人カップルと共に。



農村風景のサイクリングと、原生林のハイキングがセットになったツアーに参加した。井当付き、約5時間、9,800円。

飛騨高山の中心街から車で30分、人口1万6千程の古川町。山、緑、水田、茅葺き屋根の古民家、日本の原風景が広がる里山を、カラフルなマウンテンバイクに乗った欧米人が駆け抜ける。湧水場で自転車を停め、居合わせたお年寄りにガイドを通じ話を聞いている。

飛騨高山の中心街から車で30分、人口1万6千程の古川町。山、緑、水田、茅葺き屋根の古民家、日本の原風景が広がる里山を、カラフルなマウンテンバイクに乗った欧米人が駆け抜ける。湧水場で自転車を停め、居合わせたお年寄りにガイドを通じ話を聞いている。

飛騨高山の中心街から車で30分、人口1万6千程の古川町。山、緑、水田、茅葺き屋根の古民家、日本の原風景が広がる里山を、カラフルなマウンテンバイクに乗った欧米人が駆け抜ける。湧水場で自転車を停め、居合わせたお年寄りにガイドを通じ話を聞いている。

飛騨高山の中心街から車で30分、人口1万6千程の古川町。山、緑、水田、茅葺き屋根の古民家、日本の原風景が広がる里山を、カラフルなマウンテンバイクに乗った欧米人が駆け抜ける。湧水場で自転車を停め、居合わせたお年寄りにガイドを通じ話を聞いている。

飛騨高山の中心街から車で30分、人口1万6千程の古川町。山、緑、水田、茅葺き屋根の古民家、日本の原風景が広がる里山を、カラフルなマウンテンバイクに乗った欧米人が駆け抜ける。湧水場で自転車を停め、居合わせたお年寄りにガイドを通じ話を聞いている。

飛騨高山の中心街から車で30分、人口1万6千程の古川町。山、緑、水田、茅葺き屋根の古民家、日本の原風景が広がる里山を、カラフルなマウンテンバイクに乗った欧米人が駆け抜ける。湧水場で自転車を停め、居合わせたお年寄りにガイドを通じ話を聞いている。

飛騨高山の中心街から車で30分、人口1万6千程の古川町。山、緑、水田、茅葺き屋根の古民家、日本の原風景が広がる里山を、カラフルなマウンテンバイクに乗った欧米人が駆け抜ける。湧水場で自転車を停め、居合わせたお年寄りにガイドを通じ話を聞いている。

飛騨高山の中心街から車で30分、人口1万6千程の古川町。山、緑、水田、茅葺き屋根の古民家、日本の原風景が広がる里山を、カラフルなマウンテンバイクに乗った欧米人が駆け抜ける。湧水場で自転車を停め、居合わせたお年寄りにガイドを通じ話を聞いている。

飛騨高山の中心街から車で30分、人口1万6千程の古川町。山、緑、水田、茅葺き屋根の古民家、日本の原風景が広がる里山を、カラフルなマウンテンバイクに乗った欧米人が駆け抜ける。湧水場で自転車を停め、居合わせたお年寄りにガイドを通じ話を聞いている。

飛騨高山の中心街から車で30分、人口1万6千程の古川町。山、緑、水田、茅葺き屋根の古民家、日本の原風景が広がる里山を、カラフルなマウンテンバイクに乗った欧米人が駆け抜ける。湧水場で自転車を停め、居合わせたお年寄りにガイドを通じ話を聞いている。

飛騨高山の中心街から車で30分、人口1万6千程の古川町。山、緑、水田、茅葺き屋根の古民家、日本の原風景が広がる里山を、カラフルなマウンテンバイクに乗った欧米人が駆け抜ける。湧水場で自転車を停め、居合わせたお年寄りにガイドを通じ話を聞いている。

飛騨高山の中心街から車で30分、人口1万6千程の古川町。山、緑、水田、茅葺き屋根の古民家、日本の原風景が広がる里山を、カラフルなマウンテンバイクに乗った欧米人が駆け抜ける。湧水場で自転車を停め、居合わせたお年寄りにガイドを通じ話を聞いている。

飛騨高山の中心街から車で30分、人口1万6千程の古川町。山、緑、水田、茅葺き屋根の古民家、日本の原風景が広がる里山を、カラフルなマウンテンバイクに乗った欧米人が駆け抜ける。湧水場で自転車を停め、居合わせたお年寄りにガイドを通じ話を聞いている。

飛騨高山の中心街から車で30分、人口1万6千程の古川町。山、緑、水田、茅葺き屋根の古民家、日本の原風景が広がる里山を、カラフルなマウンテンバイクに乗った欧米人が駆け抜ける。湧水場で自転車を停め、居合わせたお年寄りにガイドを通じ話を聞いている。

飛騨高山の中心街から車で30分、人口1万6千程の古川町。山、緑、水田、茅葺き屋根の古民家、日本の原風景が広がる里山を、カラフルなマウンテンバイクに乗った欧米人が駆け抜ける。湧水場で自転車を停め、居合わせたお年寄りにガイドを通じ話を聞いている。

飛騨高山の中心街から車で30分、人口1万6千程の古川町。山、緑、水田、茅葺き屋根の古民家、日本の原風景が広がる里山を、カラフルなマウンテンバイクに乗った欧米人が駆け抜ける。湧水場で自転車を停め、居合わせたお年寄りにガイドを通じ話を聞いている。

飛騨高山の中心街から車で30分、人口1万6千程の古川町。山、緑、水田、茅葺き屋根の古民家、日本の原風景が広がる里山を、カラフルなマウンテンバイクに乗った欧米人が駆け抜ける。湧水場で自転車を停め、居合わせたお年寄りにガイドを通じ話を聞いている。

飛騨高山の中心街から車で30分、人口1万6千程の古川町。山、緑、水田、茅葺き屋根の古民家、日本の原風景が広がる里山を、カラフルなマウンテンバイクに乗った欧米人が駆け抜ける。湧水場で自転車を停め、居合わせたお年寄りにガイドを通じ話を聞いている。

飛騨高山の中心街から車で30分、人口1万6千程の古川町。山、緑、水田、茅葺き屋根の古民家、日本の原風景が広がる里山を、カラフルなマウンテンバイクに乗った欧米人が駆け抜ける。湧水場で自転車を停め、居合わせたお年寄りにガイドを通じ話を聞いている。

飛騨高山の中心街から車で30分、人口1万6千程の古川町。山、緑、水田、茅葺き屋根の古民家、日本の原風景が広がる里山を、カラフルなマウンテンバイクに乗った欧米人が駆け抜ける。湧水場で自転車を停め、居合わせたお年寄りにガイドを通じ話を聞いている。

飛騨高山の中心街から車で30分、人口1万6千程の古川町。山、緑、水田、茅葺き屋根の古民家、日本の原風景が広がる里山を、カラフルなマウンテンバイクに乗った欧米人が駆け抜ける。湧水場で自転車を停め、居合わせたお年寄りにガイドを通じ話を聞いている。

飛騨高山の中心街から車で30分、人口1万6千程の古川町。山、緑、水田、茅葺き屋根の古民家、日本の原風景が広がる里山を、カラフルなマウンテンバイクに乗った欧米人が駆け抜ける。湧水場で自転車を停め、居合わせたお年寄りにガイドを通じ話を聞いている。

飛騨高山の中心街から車で30分、人口1万6千程の古川町。山、緑、水田、茅葺き屋根の古民家、日本の原風景が広がる里山を、カラフルなマウンテンバイクに乗った欧米人が駆け抜ける。湧水場で自転車を停め、居合わせたお年寄りにガイドを通じ話を聞いている。

飛騨高山の中心街から車で30分、人口1万6千程の古川町。山、緑、水田、茅葺き屋根の古民家、日本の原風景が広がる里山を、カラフルなマウンテンバイクに乗った欧米人が駆け抜ける。湧水場で自転車を停め、居合わせたお年寄りにガイドを通じ話を聞いている。

飛騨高山の中心街から車で30分、人口1万6千程の古川町。山、緑、水田、茅葺き屋根の古民家、日本の原風景が広がる里山を、カラフルなマウンテンバイクに乗った欧米人が駆け抜ける。湧水場で自転車を停め、居合わせたお年寄りにガイドを通じ話を聞いている。

飛騨高山の中心街から車で30分、人口1万6千程の古川町。山、緑、水田、茅葺き屋根の古民家、日本の原風景が広がる里山を、カラフルなマウンテンバイクに乗った欧米人が駆け抜ける。湧水場で自転車を停め、居合わせたお年寄りにガイドを通じ話を聞いている。

飛騨高山の中心街から車で30分、人口1万6千程の古川町。山、緑、水田、茅葺き屋根の古民家、日本の原風景が広がる里山を、カラフルなマウンテンバイクに乗った欧米人が駆け抜ける。湧水場で自転車を停め、居合わせたお年寄りにガイドを通じ話を聞いている。

飛騨高山の中心街から車で30分、人口1万6千程の古川町。山、緑、水田、茅葺き屋根の古民家、日本の原風景が広がる里山を、カラフルなマウンテンバイクに乗った欧米人が駆け抜ける。湧水場で自転車を停め、居合わせたお年寄りにガイドを通じ話を聞いている。

飛騨高山の中心街から車で30分、人口1万6千程の古川町。山、緑、水田、茅葺き屋根の古民家、日本の原風景が広がる里山を、カラフルなマウンテンバイクに乗った欧米人が駆け抜ける。湧水場で自転車を停め、居合わせたお年寄りにガイドを通じ話を聞いている。

飛騨高山の中心街から車で30分、人口1万6千程の古川町。山、緑、水田、茅葺き屋根の古民家、日本の原風景が広がる里山を、カラフルなマウンテンバイクに乗った欧米人が駆け抜ける。湧水場で自転車を停め、居合わせたお年寄りにガイドを通じ話を聞いている。

飛騨高山の中心街から車で30分、人口1万6千程の古川町。山、緑、水田、茅葺き屋根の古民家、日本の原風景が広がる里山を、カラフルなマウンテンバイクに乗った欧米人が駆け抜ける。湧水場で自転車を停め、居合わせたお年寄りにガイドを通じ話を聞いている。

飛騨高山の中心街から車で30分、人口1万6千程の古川町。山、緑、水田、茅葺き屋根の古民家、日本の原風景が広がる里山を、カラフルなマウンテンバイクに乗った欧米人が駆け抜ける。湧水場で自転車を停め、居合わせたお年寄りにガイドを通じ話を聞いている。

飛騨高山の中心街から車で30分、人口1万6千程の古川町。山、緑、水田、茅葺き屋根の古民家、日本の原風景が広がる里山を、カラフルなマウンテンバイクに乗った欧米人が駆け抜ける。湧水場で自転車を停め、居合わせたお年寄りにガイドを通じ話を聞いている。

飛騨高山の中心街から車で30分、人口1万6千程の古川町。山、緑、水田、茅葺き屋根の古民家、日本の原風景が広がる里山を、カラフルなマウンテンバイクに乗った欧米人が駆け抜ける。湧水場で自転車を停め、居合わせたお年寄りにガイドを通じ話を聞いている。

飛騨高山の中心街から車で30分、人口1万6千程の古川町。山、緑、水田、茅葺き屋根の古民家、日本の原風景が広がる里山を、カラフルなマウンテンバイクに乗った欧米人が駆け抜ける。湧水場で自転車を停め、居合わせたお年寄りにガイドを通じ話を聞いている。

飛騨高山の中心街から車で30分、人口1万6千程の古川町。山、緑、水田、茅葺き屋根の古民家、日本の原風景が広がる里山を、カラフルなマウンテンバイクに乗った欧米人が駆け抜ける。湧水場で自転車を停め、居合わせたお年寄りにガイドを通じ話を聞いている。

飛騨古川

観光先、移住先としての地方の可能性

東北被災地が向き合う根本課題は、産業空洞化や過疎など、日本全国の地域域の抱える共通課題。東北以外の事例から目指すべき方向性のヒントを模索する本シリーズ第2回は、岐阜県の飛騨地域を訪れた。

東京から移住し5年、コンサルティングのスキルと世界一周の経験を活かし、「クールな田舎をプロデュースする」をコンセプトに里山の魅力を国内・海外へと発信する山田拓(たく)さんに、話をうかがった。

ツアー参加の半数が外国人。人気の理由

ウエブサイトや口コミで外国人ファンを集めているのは、観光コンサルティング会社「美ら地球(ちゅらぼし)」が運営する「飛騨里山サイクリング」。英語を通じるツアーと共に、田

や畑や森、古民家や蔵や町屋、昔ながらの生活の営みを見て回る。シーズン中は月に約千人になる利用者の約半数が外国人だという。サイクリングの他にも、地元(の伝統料理を学べるツアー、大工の棟梁と共に町歩き古民家や林業の話を聞けるツアー、冬にはかん

や畑や森、古民家や蔵や町屋、昔ながらの生活の営みを見て回る。シーズン中は月に約千人になる利用者の約半数が外国人だという。サイクリングの他にも、地元(の伝統料理を学べるツアー、大工の棟梁と共に町歩き古民家や林業の話を聞けるツアー、冬にはかん

や畑や森、古民家や蔵や町屋、昔ながらの生活の営みを見て回る。シーズン中は月に約千人になる利用者の約半数が外国人だという。サイクリングの他にも、地元(の伝統料理を学べるツアー、大工の棟梁と共に町歩き古民家や林業の話を聞けるツアー、冬にはかん

や畑や森、古民家や蔵や町屋、昔ながらの生活の営みを見て回る。シーズン中は月に約千人になる利用者の約半数が外国人だという。サイクリングの他にも、地元(の伝統料理を学べるツアー、大工の棟梁と共に町歩き古民家や林業の話を聞けるツアー、冬にはかん

や畑や森、古民家や蔵や町屋、昔ながらの生活の営みを見て回る。シーズン中は月に約千人になる利用者の約半数が外国人だという。サイクリングの他にも、地元(の伝統料理を学べるツアー、大工の棟梁と共に町歩き古民家や林業の話を聞けるツアー、冬にはかん

や畑や森、古民家や蔵や町屋、昔ながらの生活の営みを見て回る。シーズン中は月に約千人になる利用者の約半数が外国人だという。サイクリングの他にも、地元(の伝統料理を学べるツアー、大工の棟梁と共に町歩き古民家や林業の話を聞けるツアー、冬にはかん

や畑や森、古民家や蔵や町屋、昔ながらの生活の営みを見て回る。シーズン中は月に約千人になる利用者の約半数が外国人だという。サイクリングの他にも、地元(の伝統料理を学べるツアー、大工の棟梁と共に町歩き古民家や林業の話を聞けるツアー、冬にはかん

じきを履いて雪の里山を歩くツアーや、祭に向けて地元の子供から大人までが踊りやお囃子を練習する様を見学できるツアーも。

同社社長の山田拓さん(38)は東京の外資系コンサルティング会社を退職し、夫婦で約2年間の世界旅行をした後、飛騨に行き着いた。07年に美ら地球を創業、外国人観光客を迎えるインバウンドビジネスを中心に事業を展開する。英語のウエブサイト「Rural Japan Explorer」では、外国人向けに日本の里山文化を発信、田舎を巡るオリジナルツアーを提案している。同社で働く8名は、生粋の地元民1名を除く全員がUターンまたはイターン者、かつ海外で1年以上の滞在経験があるという。山田さんに観光復興につ

上(の)の家屋約千二百戸の聞き取り調査を実施した。結果3割以上が居住者2人以下。高齢の住人が多く20年後には半数近くが空き家となる可能性を予測した。そこで美ら地球が始めたのは、「飛騨民家お手入れお助け隊」。全国から集まったボランティアで古民家の清掃・手入れを行い、貴重な伝統家屋を後世に残したいと活動している。また最近、空いている古民家にインターネットなどの設備を整え、数週間から企業などに貸し出す「里山オフィス事業」も開始。都会の喧騒を離れた仕事をしたいIT関連企業やデザイナー事務所などが早速利用し、問合せも相次いでいるという。

元の人々を交えての懇親会を行った。「全ての回が定員オーバーで、都市住民の地方への関心の高まりを感じました。一方、古民家物件はあるが仕事はあるのかとの質問も多く、都市生活的な、個人の視点の強さも実感。集落との協調性など、地方の住民視点を理解している人は少なく、このミスマッチをなくす必要性を感じました。」山田さん自身も5年、地域を学び、受け入れてもらう努力を積み重ねてきた。「どの地域にも、よそ者や新しさといった『異質』への敬遠はあります。ただ、地域にそれまで存在しなかったから『異な』わけて、実は地域に必要とされる機能を担える可能性がありま

す。特にプロデュース、マネジメントを担えるなど、地域の未来を共に創れる人材が来てくれれば、可能性は広がると思っています。」

期間は13年5月〜12月の8か月間で、約20回の講義。対象は、福島復興の志と未来を担う覚悟を持つ20〜30代の男女で、定員20名程度。4月12日までにウエブのエントリーフォームから申し込む(選考あり)。初年度は学

福島大学が「復興塾」を開講 県の未来担うリーダーを育成

福島大学が、震災と原発事故からの復興を担う人材を育成する「ふくしま復興塾」を5月に開講する。これは、11年4月に同大学内で設置された「うつくしまふくしま未来支援センター」と、県ゆかりの企業経営者などが共同で開講するもの。開講に当たり、「復興応援キリン絆プロジェクト」の一環でキリンビールから2千万円の支援金が助成された。

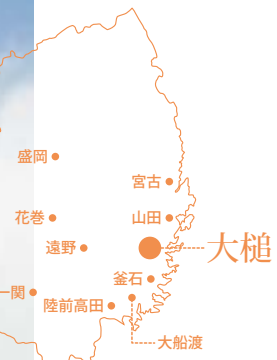
期間は13年5月〜12月の8か月間で、約20回の講義。対象は、福島復興の志と未来を担う覚悟を持つ20〜30代の男女で、定員20名程度。4月12日までにウエブのエントリーフォームから申し込む(選考あり)。初年度は学

期間は13年5月〜12月の8か月間で、約20回の講義。対象は、福島復興の志と未来を担う覚悟を持つ20〜30代の男女で、定員20名程度。4月12日までにウエブのエントリーフォームから申し込む(選考あり)。初年度は学

東北のいま

「[14]内閣府の支援事業で起業。レストラン「パールリート」写真・文＝岐阜県 渡部 淳 郎

フォトエッセイ



大槌町で初めてのイタリアンレストランができた。

大槌町市街から、右に海岸線を辿りながら東へ。漁港を過ぎたあたりで左の小道に入り、少し坂を登ったところに、木造のロッジが見える。濃い緑の看板が柔らかに太陽の光を反射させていた。看板の「BARLITO」の意味を聞くと、「もう何度説明したことか」とオーナーシェフの木村省太さんは笑った。はにかむように笑う口元が優しい。細身の身体に、カールした黒髪。

釜石の県立病院で調理師として働いていた木村さんは、震災で職を失った。「おうちありがとうロックフェスティバル」の開催に関わったり、「おらが大槌夢広場」が運営する復興食堂の厨房で働くなどをしながら、自身の店を持つ機会を模索してきた。2012年の9月、おらが大槌夢広場を通して、今の土地と仮設の小屋を借りる話が来た時、迷いもあったが、「これでやらないと、いつまたチャンスがあるか分からない」と決意。11月いっ

いで復興食堂を退職すると、三ヶ月後の2013年2月14日にイタリアンレストランを開業。事業資金は、内閣府の起業支援事業から210万円の助成を受けた。

「BARLITO」は、パールリートと読み、「浜辺の食堂」を意味するという。そこには地元の人が気軽に食事を楽しめるように、という思いが込められている。

取材した日は3月上旬。開業から一ヶ月に満たない。始めたばかりの経營業務や料理の仕込みで、早朝から深夜まで働きづめの一ヶ月だった。この日のランチも、全16席が埋まり、客が一度は入れ替わっていた。特にピザはオープン記念で半額にしていたのもあり、多い日は60枚近く売れるという。

ピザ生地を混ぜ、下地を作ると球状にして発酵させる。夏なら1時間半で済むが、冬場は3時間かかる。それを冷蔵庫で一晩寝かせたら翌日、生地を伸ばして400度の釜で焼き上げる。1キロで8人前なので、毎日8キロ近く仕込む。大槌

で初めてのイタリアンということもあるかもしれない。お年寄りから子供まで、ピザは好評だった。「パスタもすごくこだわっているんですけどね」と木村さんは笑う。イタリアンにした理由は、自分が作るのも食べるのも好きだったから。

この一ヶ月間は、今日と明日のことに追われていたが、地元から愛されていることを実感する日々でもあった。実は、防潮堤の盛土が始まるため、早くて今年の9月には、場所を移さなければいけない。ただ、お店としては「これからサービスも料理も成長して、ずっと長く愛されるように育てていきたいです」と木村さんは話す。

この日は、風が強く、雲の流れも早い。広い雲がしばらく陽を遮ったかと思えば、いつの間にか窓から陽がさし込み、見上げれば青空が広がっている。窓から外を見れば、BARLITOの看板にも描かれている、ひょうこりひょうたん島のモデルになったと言われる蓬萊島(ほうらいじま)。小高い丘が二つ連なった姿を見せていた。



木村商店 いか徳利

日本酒飲みこなし上級者向け!? コレで今年の花見はヒーローだ



体験工房もあり、飲んでよし、食べてよし、作ってよしの「いか徳利」と、日本酒の愛は永遠に。

において、その姿・形を変えいつも私を楽しませてくれた「イカ」。そんな旧知のイカが徳利としても活躍をしているの

刺身、一夜干し、そうめん、てんぷら、リング、塩辛、そしてスルメ……。これまで幾度となく、大抵はお酒の席

を知り、改めて魅力を感じたのはつい先日のことだ。まさに噛めば噛むほど味の出る食べ物である。真イカの胴を天日乾燥させた木村商店の「いか徳利」は、岩手では古くから通な地元の方々に愛されてきた。熱燗から「いか徳利」に移し替えられた日本酒は、10分ほどでよりマイルドな味わいとなり一層酔わせ上手になる。セクシーなくびれからトクトク音を響かせ、お猪口に注がれるのを眺めているだけで、ウツトリと酔いが回ってしまうから要注意だ。さらに最後は徳利自身を食べることができる。日本酒の染みたイカを肴に、イカの効いた日本酒を愛でる。これぞ日本酒飲みこなし

の上級者だろう。この他「三陸のお母ちゃんの味」を目指す同社のサイトには、黒潮と親潮が出会う三陸山田の前浜で採れた新鮮な食材を使った商品が並ぶ。いか徳利に加え、甘酢漬や干物等、一週間かかったこだわりのおつまみを300円〜500円程度から選べるのが嬉しい。もうすぐ美しい桜を眺めながら日本酒を楽しむイベントがやってくる。みんなが集まるパーティーで、ちよつと気の効いた手土産を持参するのはモテる男の秘訣。今年の花見は「いか徳利」でヒーローになろうと密かに企んでいる。(K)

仕組みはこうだ。折浜・蛤浜の漁師がFCCCに剥き場の一角を貸し出し、そこに就労困難者が研修生として通う。研修生は、漁師たちが収穫した牡蠣の殻を洗って箱詰めし、それをFCCCが買い取る。牡蠣は浜にボランティアで訪れた人など、浜と縁深い人をはじめ、消費によって浜の漁業を支援したいと望む全国の消費者に届けられる。



就労トレーニングを行う生活保護受給者

この時、ある決意が生まれた。「彼の“代役”になる」。一人ひとりが出会った人に自分の見たこと・聞いたことを直接伝えること(「語り部になる」)。地味ではあるかもしれないけれど風化の抗いの、一番の力になるのではないだろうか。3週間のインターンを終えて帰京した私は、現在新聞記者を目指し就職活動中。いつか立派な「語り部記者」になつて、運転手さんになつた会に行きたい。(N)



復興イチゴ、出荷中!

東北一のイチゴの産地、宮城県亘理(わたり)郡。淡い色味が特徴の最高品種、桃薫(とうくん)の甘さたるや!

牡蠣の剥き場で就労トレーニング!?

ホームレス・生活保護受給者への支援で「恩送り」の想い支える

石巻駅から車で30分。宮城県牡鹿半島の根元に、折浜(おりのはま)と蛤浜(はまぐりはま)という小さな集落が並んでいる。津波によって漁船や漁具はすべて流され、両浜あわせて2軒あった牡蠣の剥(む)き場も壊滅的な被害を受けた。昔は牡蠣の養殖や定置網漁を行う活気ある漁港だったが、漁業者は震災前で10世帯、震災後は5

このプロジェクトのねらいは、大きく3つある。一つは就労困難者へ研修や社会参加の場を提供し、社会復帰の後押しをすること。継続して関われるよう、日当も支給する。次に、漁師支援。プロジェクトで扱う牡蠣をFCCCが買い取り、漁師の収入源担保と、新たな販路開拓を行う。最後に、漁業に関わる人を増やし、人材不足を将来的に解消することだ。

折浜・蛤浜の漁師たちの「恩送り」(誰かから受けた恩を、直接返すのではなく別の人に送ること)の想いを、FCCCによる地域密着型支援が支える。一方的・一時的な支援ではなく、ヒト・カネ・モノが循環するこの仕組みは、継続可能で、他の産業にも転用できると、FCCC事務局長の配島(はいじま)一匡さんは話す。

約2年勤めた会社を1月末に飛び出し、その2週間後、私は仙台にいた。河北新報社のインターンに参加するためだ。被災現場を見ては、「何を伝えたいのか」と取材レポートの執筆を繰り返した。「風化に抗うために何ができる?」何度も自分に問いかけた。でも答えは見つからない。スキルもない、お金もない、東京の小姐。無力感でいっぱいだった。1週間ほど経ったある日、語り部タクシーの運転手さんに、津波の被害に遭った若林区荒浜を案内してもらった。「最初は思い出すのが辛くて、正直やりたくなかつた」。車を運転しながらぼつりと呟いた。「でも、もう自分と同じ思いをする人を見たくない。だから伝えることにしたんだよ」。

3年目の復興を担う、リーダーの『右腕』を募集!!



NPO法人ETICは東北の事業創造や地域再生に取り組むリーダーを支えるため「右腕派遣プログラム」を実施しています。これまで60のプロジェクト、140名以上の人材を東北に派遣してきました。2013年2月からは、ap bank Fund for Japanと連携し、右腕派遣先のプロジェクトを公募開始。

「5年後も10年後も若者たちが集い、起業家精神あふれる東北」を目指し、これからも東北の「担い手」を送り続けます。事業の担い手(右腕)になりたい方、あるいは右腕の受け入れをされたい団体がいましたら、是非お問い合わせください。